

## 実践報告Ⅳ

《将来の生活について想像し、  
具体例を考える。》

— 「縦思考」（具体と一般の往復） —

国語総合（評論文／港千尋「知識の扉」）



佐藤康裕

国語科学習指導案	
	平成23年6月30日(木)3校時 1年2組 指導者 佐藤 康裕
単元名	評論(三)
学習材	「知識の扉 ― 学ぶことの身体性」 (『国語総合』大修館書店)
単元の目標	○現代の課題について問題意識を持ちながら、筆者の主張を進んで理解しようとする。 (関心・意欲・態度) ○筆者の主張を理解したうえで、現代人の今後の生活について <b>想像力</b> を働かせて考察する。 (読む能力)
指導上の立場	○生徒観 対象生徒は、素直で学習態度もまじめであるが、語彙は乏しく、読み取りが感覚的なものになりがちで、論理的に内容を把握する力は不十分であると見受けられた。そこで、評論文「水の東西」を通して、対比的な思考になじませるとともに、本文に即して段落相互の関係を読み取る力を養う経験をした。また、日常的な学習として「新聞のコラムを視写し、感想を簡潔に書く」という課題に取り組みながら語彙力を高めている段階である。しかしまだ構成や展開を理解する力や叙述内容を自己に引きつけて読み取る力は不足している。 ○題材観 「知識の扉―学ぶことの身体性」は、筆者が課題を読者に投げかけ、自ら解答・解説する「課題解答方式」の文章である。課題と解答の内容をそれぞれ確認する活動を通して、問題提起と解答との関係に注意しながら読むという論理的な文章の読み方を学ばせたい。また、高校生にはやや難解な表現や含蓄のある表現が適度に盛り込まれており、その内容を具体化したり、関連する表現を探させたりすることによって、思考力や <b>想像力</b> を伸ばすのにふさわしい題材であるといえる。さらに、本題材は文字文化と身体性の密接なつながりについて述べられた評論文である。デジタル化に伴う本の物質性や身体性の変化、および物質性や身体性と知識の習得との関係性がテーマとなっており、デジタル機器に触れる機会が多い生徒にとっては、改めて日常生活を見直す機会となり得る。筆者の主張を自己の問題と引きつけて吟味させた上で、将来の状況を予測する力を養うことができると考える。 ○本単元で工夫する点や手だて 「新学習指導要領」の教科目標に「 <b>想像力</b> 」を伸ばすことの記述があり、この「 <b>想像力</b> 」には「根拠に基づき先を見通す」などの論理的な側面がある。そこで、本単元では、本文の論旨を正確に読み取るだけでなく、筆者の指摘を自分の身のまわりの具体的なものに置き換えて理解することや、デジタル化が急速に進展する現代社会における生き方・在り方について見通しを立てる学習活動に重点を置きたい。また、班活動を取り入れることによって、主体的な学習活動を促すとともに、他者との意見交流を通じて思考が深まっていくことも実感させたい。
指導計画	全6時間扱い 第1時 通読、本文全体の構成の把握、第一・第二段落の読解・提起された問題の確認 第2時 第三段落の読解・本の物質性(読むことの身体性)の読み取り 第3時 // ・文字の物質性(書くことの身体性)の読み取り 第4時 第2時・第3時をふまえた全体の論理の把握 第5時 筆者の主張の確認・今後の生活についての考察 …………… 本時 第6時 考察の深化・文章化と相互読み、まとめ
評価	○具体の評価規準 ・現代の課題について問題意識を持ちながら、筆者の主張を進んで理解しようとしているか。 (関心・意欲・態度) ・筆者の主張を理解したうえで、現代人の今後の生活について <b>想像力</b> を働かせて考察できているか。 (読む能力) ○Cと評価した生徒に対する手立ての例 ・必要に応じて、他者の意見を聞きながら、自分の考えを整理するよう助言したりする。

本時案 (第5時)			
目標	<p>班での意見交換を通して、筆者の主張についての理解を深めようとするができる。 (関心・意欲・態度)</p> <p>具体例を通して考えることで、筆者の主張を理解し直すとともに、その主張に基づいて考えたことを、班活動を通して整理、深化させ、根拠のある予測を行うことができる。 (読む能力)</p>		
時間	学習活動	指導・支援上の配慮事項など	規準・方法など
導入 5分	(1) 筆者の主張を確認する。	(1) 前時までに読み取った「意識と物質の相互作用から、「文字」や「言葉」を学ぶことが重要だ」とする筆者の主張を想起させる。	
	(2) 本時の活動内容について知る。	(2) 筆者が主張する「物質の持つ役割」とはどのようなことを確認するという本時の目標を説明する。	
展開 5分	(3) 筆者の主張する「物質性を伴う」ことの大切さを具体例に基づいて考える。	(3) 物質性を伴うものとそうでないものとの事例を挙げさせ、班ごと(4人構成10班)に一つのテーマを指定し、長所・短所について話し合わせ、発表させる。 ① 「物質の役割」を検証するためには、具体例に基づいて捉え直すことが妥当であるとの意識を共有させる。 ② 物質性が変化すると身体性も変化するという筆者の主張に則した具体例を挙げさせる。(出なければ、「手紙とメール」「手書きとパソコン」「視写とコピー」「辞書と電子辞書」の項目を提示する)	
5分		③ 班に分かれ、班ごとに項目を指定する。 ④ 各自で、指定された項目について、それぞれ長所・短所を考え、ワークシートⅠに記入させる。	長所や短所についての理解を、話し合いによって深めようとしているか。(関心・意欲・態度) <b>Cの生徒への指導の手立て</b>
5分		⑤ 班で話し合い、長所・短所を付箋紙に整理し、班の代表者に黒板に貼らせる。 ⑥ 黒板を参考に、「物質の潜在的な役割」を各自でまとめ、発表させる。	
10分			
8分			<b>Cの生徒への指導の手立て</b> 発表の内容が不十分な生徒には、他の生徒の発表内容のうち、自分に欠けているものを記入するように促す。
5分	(4) 物質の持つ役割を踏まえたうえで、今後「モノとしての本」が自分たちにとって必要かどうかを考える。	(4) 「モノとしての本」が自分たちにとって今後必要かどうかを考えさせる。 ・物質性を伴う「モノとしての本」の持つ長所を考えたとうえで、自分たちにとって必要かどうかを考えさせ、ワークシートⅡに書かせる。	「モノとしての本」の将来の姿を想像し、ワークシートⅡに記入をしようとしているか。 (関心・意欲・態度) <b>Cの生徒への指導の手立て</b>
まとめ 2分	(5) 本時の内容を振り返る。 次時の予告を聞く。	(5) 「物質の役割」を再確認する。 ・筆者の主張と自分の考えを再確認するために、文章を書くことを示す。	<b>Cの生徒への指導の手立て</b> (3)で確認した事項を参考に、記入するように促す。

## 実践Ⅳ

### 考察

#### ①成果

今回の実践の成果として先ず挙げられるのは、生徒が表面的にではなく自分自身の思考と評論文とを有機的に関連させながら、本文を読むことができたという点である。生徒にとって「難しい」と感じる評論文中の抽象的な言葉に焦点をあて、その言葉から具体例を想像させたのだが、この活動は生徒に評論文を理解させる上で効果的だったと思う。生徒が、ワークシートⅠにある「物質があるとどうなるか」という一見わかりにくい問いに対して、「直接味わうことが出来る」や「その人の個性がにじみ出る」などといった論旨に沿った答えを導き出していたからである。

また、ワークシートⅡで意見文を書かせることで、筆者の主張を再確認させ、拡散した具体例を自分の考えに収斂させることを試みた。この活動は、具体を一般化する抽象思考の訓練になった。

その他の成果として、具体例を想像するという「思考の方法」を共有できたことがある。「一つの進歩は別の面での後退をもたらす」。この一文に対して教室内は、納得している者、共感できていない者、それぞれがそれぞれの理解でとどまっていた。そこで、具体例の想起を促したところ、「冷凍食品など出来合いのものが普及しすぎたことで、繊細な味覚が失われつつあるという話を聞いたことがある」と発言した生徒がいた。それをきっかけに、論旨に沿った具体例を多くの者が発言した。こうした生徒自身の発言が他の生徒の理解を手助けし、教室内の交流を促し、学び会う場を創造していったのである。

#### ②課題

本単元では、筆者の主張を自分の身のまわりの具体的なものに置き換えて理解することと、デジタル化が急速に拡大する現代社会において一人一人がどのような「生き方・在り方」になるかを、想像力を働かせて考察することを目指して学習活動を行った。

生徒は筆者の主張に対して理解しようとし、また現代人の今後についても自分なりに想像していたが、その想像は『解説』(p.10)にある、「あるべき姿を予測」するところまでは至っていないように感じた。これは、ワークシートⅡの意見文におけるテーマの提示の仕方や、目標の立て方そのものが不十分であったためだと考えられる。

今後の実践では、社会が抱える課題を自らのものとして、筆者の主張を根拠にした上で将来どのように行動していったらよいかを想像するための学習活動を行っていきたいと考えている。

1年 組 番 ( )

物質を伴うもの



	長所
	短所

物質を伴わないもの



	長所
	短所

-----ここからは、まだ書かない。-----

物質があると、

  
  

反対に、物質がないと、

「モノとしての本」は今後、自分にとって必要(不要)だろうか？

1年 組 番 ( )

● 「モノとしての本」は

必要だ

・

不要だ

と考える。

● 思考の整理。(自分の主張の根拠として考えられることを箇条書き)

. . . .

● 「モノとしての本」は今後、自分にとって(必要だ・不要だ)と考える。

理由は、

. . . .

1年 組 番 ( )

物質を伴うもの

手書き

長所  
 ・いろいろあつておもしろい。(人とれどれ)  
 ・  
 短所  
 ・面倒くさい。  
 ・たくさんつくるのが大変。

物質を伴わないもの

パソコン

長所  
 ・マス1個でいろいろなことができる。  
 ・コピーできる。  
 短所  
 ・字が同じすぎておもしろくない。

-----ここから下は、まだ書かない。-----

物質があると、  
 手間がかかると、あたにかみを感じるこぼができる。実感、体感♡  
 反対に、物質がないと、  
 とても便利で使いやすいけど、気持ちや伝わりがないかも。

「モノとしての本」は今後、自分にとって必要(不要)だろうか?

1年 組 番 ( )

● 「モノとしての本」は 必要だ ・ 不要だ と考える。

● 思考の整理。(自分の主張の根拠として考えられることを簡条書き)

・たくさんあると嬉しい。  
 ・作成者の思い。

● 「モノとしての本」は今後、自分にとって(必要だ・不要だ)と考える。

理由は、簡単になって、持ち運びに便利になったとしても、そこには、その二冊の本を作る為にかを合わせた人々の思いが見えないと思う。本は、大まかにも厚くも薄くもバリエーションだけでも、読め終えた本が、どんな積り重なるか、それは、どうコントロールした本では、わかりにくい。そして、日に当たって、本の側面が茶色になることは、その本と一緒にした時間、読んだ回数もあらわしているようで、私はモノとして、本は皆に必要だと思おう。